

学校教育目標	「豊かなかかわりの中で生きる力を身に付けます」 ○主体的に人とかかわり合いながら、問題解決に向けて意欲的に学び合い、高め合う子どもを育てます。(知) ○礼儀や思いやりの心を大切にし、自分と他者との違いを認め、受け入れながら、共に生きていこうとする子どもを育てます。(徳) ○健康・安全に関心をもち、良い生活習慣と安全行動を身に付け、自分も周りの人の命も大切にする子どもを育てます。(体) ○社会の一員として求められる姿勢や資質・能力を身に付け、社会の役に立つために進んで行動する子どもを育てます。(公) ○郷土のよさを知り、郷土を大切にする心を育むとともに、諸外国の文化の違いを認め合いながら共に生きる力を育てます。(開)					
	創立 131 周年	学校長 吉田 茂樹	副校長 中西 俊夫	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 6
学校概要	児童生徒数: 590 人		主な関係校: 中山中学校・上山小学校・森の台小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中山中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・問題解決能力> <共生社会の中で生きる力>	中山中学校 上山小学校 森の台小学校	豊かなかかわりを通して、主体的に課題解決をする子ども ・地区懇親会や子ども会議を通して、児童・生徒が「まち」とかかわりながら、自分の課題について考えられるようにする。 ・小中合同授業研究会では、「主体的に課題を解決する力の育成」をテーマに協議会を行う。 ・授業・音楽・部活動などで、児童・生徒が直接交流する場をつくる。

中期取組目標	○互いに受け止め合って高め合う「じぶんががすき ともだちががすき 中山ががすき」になる子どもの育成を目指し、主体的・対話的に問題解決を図る学びを充実させます。 ・令和4年度は、学習に興味・関心をもち、進んで問題を発見し、自分の思い・考えを相手に伝える意識を高めました。 ・令和5年度は、相手の思いを受け止め、共に学ぶ楽しさを味わえるようにします。 ・令和6年度は、互いに受け止め合ったことを意思決定や問題解決に生かすことができるようにします。 ○「まち」の人とのつながりを大切にし、豊かな体験を通して中山のまちを愛する心を育てます。 ・地域の人・自然・名所・行事等とのかかわり合いを通して、まちとのつながりを深めることができるようにします。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	①重点研究会で、互いに受け止め合いながら対話的に問題解決し、学びを深めていく授業実践の研究を推進する。(A:年5回、児童の育ちの振り返りを行い、授業に生かしていく。B:年3回、外部講師を招いての授業研究会を行い、授業力を高める。C:授業を見合い教師自身の知識と技術の向上を図るとともに、全職員で全児童を育てる意識を高める)②学年に応じた教科分担任制を推進し、専門性を生かして授業の質の向上を図る。③スキルタイムや読書タイムで基礎力の定着を図る。④タブレットの有効活用、算数デジタル教科書(高学年)の試行活用を図る。
徳	人権教育	①重点研究と連動して、互いに受け止め合い、自尊感情を高め、他者を理解する日々の授業実践を行っていく。②教職員の人権意識を高める研修会を様々な形で行い、児童支援や授業実践に生かす。③挨拶を年間重点目標に掲げ、児童会が中心となって自ら進んで心の交流を深める。④たてわり活動や、異学年間の交流の場を毎月設定し、年間を通して豊かな学び合いができるようにする。
体	健康教育	①心と身体の健康維持のための情報を学校保健委員会を通して発信し、家庭での実践につなげる。②児童会保健委員会と連動し、現代的健康課題への主体的な取組を行う。③養護教諭、栄養教諭などの専門性を生かし、担任と連携して健康教育や食育の指導にかかわっていく。④持続可能な体力向上に向けた実践を行う。(児童保健委員会・児童運動委員会の連携:校歌de体操など)
公開	地域・学校協働活動	①学援隊等地域との連携を深め、通学の安全見守りのほか、野菜作り、地域の歴史・行事、防犯など豊かな学びができるようにする。②小中ブロックで連携しながら、花いっぱい活動や地区懇親会、祭りなど積極的に地域活動に参加できる機会・環境をつくる。③小中ブロックで年4回の学校運営協議会を行い、学校・地域・保護者・有識者で情報共有・意見交換を行い、学校経営の評価・改善に生かす。
いじめへの対応		①児童アンケートや職員会議・学年研等で児童理解の場を設け、少しでも気になることがあれば、学年や児童支援専任、管理職に早急な報告を徹底し、チームでいじめの早期発見・対応に努める。②YPを活用して、人権や思いやりを大切にした学級の雰囲気づくりに努める。また、教科分担任制を通して、幅広い視点で子どもを見守っていく。③誰もが居心地の良い学校づくりを児童とともに考え、横浜子ども会議などの内容を児童主体で校内に発信し、実践していく。
人材育成・組織運営(働き方)		①校内研修を計画的に行う。(人権、特別支援教育、安全・危機対応、不祥事防止等)②毎月のメンター研修で経験の浅い教員の育成と共にミドルリーダーの育成を図る。毎週の教務会では、学校運営について連絡・調整、協議を行い、学校経営参画を高める。③教職員の軽減負担を進め、児童に向き合う余裕をつくる。グループウェアの有効活用で、会議時間を短縮する。教科分担任制や時間割の工夫で放課後の授業準備等の時間を確保する。電話対応時間を勤務時間に近付ける。プール清掃や教室ワックス掛け等の外部委託を推進する。
安全教育		①年間を通して計画的に安全指導・訓練を行う。(地震・火災避難訓練、不審者対応訓練、緊急時の保護者引き渡し訓練、台風等悪天候時の対応、交通安全教室を含む徒歩・自転車等の安全指導・登下校時の見守り指導など)②教職員の安全研修を行い、危険回避・危機対応力を高める。(不審者対応、消火訓練、体育・理科等の学習安全など)
特別支援教育		①個のニーズに合わせた支援を行う。児童の配慮事項や支援内容を全職員で共有する。また、一般級と個別支援級との連携の充実を図る。困り感のある児童本人や保護者の願いを大切にし、必要に応じて「個別的教育支援計画」等を作成し、家庭と連携しながら支援や指導を行う。②教職員の特別支援教育に対する意識を高めるため、研修などを実施する。③ユニバーサルデザインを意識した環境づくりを行う。(教室掲示や視覚的補助の工夫など)
児童指導		①職員会議等で児童理解の機会を確保し、子どもたちの様子を職員全体で共有し、日々の指導に生かす。②時代や学校のニーズに合ったスタンダードの見直しを適宜行うとともに、共通した指導が行えるように教職員でスタンダードの徹底を図る。③保護者への連絡が必要な大きなトラブル・けがなどは、学年や児童支援専任など複数で対応する。④子どもに寄り添った支援を行う。(相談、声掛け、忘れ物時の代替可能な場合の配慮など)
図書館・情報教育		①図書館機能の充実を図る。(学校司書教諭・担任と学校司書との連携による環境整備、読書活動、調べ活動など学習支援、保護者の図書ボランティアとの連携など)また、図書委員会による児童の主体的な読書推進活動を行う。②ICTの効果的な活用を推進する。(情報モラル学習、授業でのタブレット活用、プログラミング学習、オンライン活用など)